

辺野古通信

第16号 2009年5月31日



5月16日のキャンプ・シュワブ

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座
沖縄講座 HP <http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

「グアム移転協定」強行成立を糾弾する！



■5月13日、「在沖米海兵隊グアム移転協定」が国会承認され成立。同日参議院で否決されたものの、与党多数の衆議院の議決が優先されたもの。沖縄県議会の意見書(3月)や沖縄タイムス・朝日新聞の世論調査(5月)などに明確に示された沖縄の民意をまったく無視した暴挙であり、これを推進した自公政権を断固糾弾します。■このような中で、私たちは今年も5月15日から18日まで「第13回沖縄ピースフルツアー」を挙行、辺野古・高江の座り込み現場を訪問し、辺野古通信読者のみなさんにご協力いただいている支援カンパを届けてきました。合わせて薩摩による琉球侵略400年琉球処分130

年を問う集会・デモにも参加し、沖縄の人々と様々な場面で意見交流してきました。(報告記事参照) ■日米軍事再編にかける日米の強固な意志は、神奈川の基地の動きにも現れています。沖縄講座も参加する基地撤去をめざす県央共闘会議は5月23日に第10回定期総会を開催し、6月6日の戦闘指揮訓練センターの建設中止を求める相模原行動や28日の横須賀市長選挙など当面の取組みを確認しました。記念講演では東奥日報の斉藤記者から日米軍事一体化の象徴であるMDミサイル防衛の最前線にある三沢基地の動向などの報告を受け、意見交換しました。■沖縄講座では、日米軍事再編と対峙する現場に拠りつつ、〈日本—沖縄—アジア〉の歴史と現在を考える連続企画「沖縄・歴史と現在」を準備しています。第1回の記録映画上映会(7月11日)の前売りチケットの販売も始めています。第2回は10月2日に講演会(講師は田仲康博さん)を開催します。ご支援・ご協力を！

■辺野古・高江カンパは累計1,040,762円(5月31日現在)下記の口座へ！
郵便 00210-0-2021 沖縄連続講座

『反国家宣言～非日本列島地図完成のためのノート』7.11 横浜上映会へ！

7月11日(土)14時 スペースオルタ(新横浜駅7分)

前売券1000円(当日1500円)



沖縄青年同盟の「沖縄語裁判闘争」からはじまり、非日本列島地図を描くように、大阪の沖縄人集落、1972復帰をはさむその前後の沖縄に移動、さらに八重山の台湾人移住者を訪ね、それから一挙に北へターンし北海道のアイヌへと至る旅の記録。映画に登場する仲里効さんに「〈復帰＝再併合〉を問う」と題して講演していただきます。

進む基地強化-日米軍事再編と対峙する沖縄の〈持続する力〉

15日(金) 15時にホテルチェックイン。県立博物館・美術館にて「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄-日本国憲法第九条下における戦後美術」を見る。天皇ヒロヒトをカラージュした大浦信行さんの作品の展示が県側から不当にも拒否され問題になっている。入館前に上空を嘉手納方面に向け飛行する米軍戦闘機の編隊に遭遇。けたたましい爆音。この爆音も展示の一部、か。

18時から、牧志公園で「5.15を問う会」主催の「琉球処分130年、沖縄再併合37年、アイヌモシリ併合140年糾弾5.15集会」。まよなかしんやさん司会で、ヤマトからの団体、高江からアピール。発言の締めは沖日労。デモするころには総勢100人、県庁広場までデモ行進。夜の国際通りは賑やかで、注目度バツグン！



16日(土) 8時半、ホテル出発、一路、やんばるへ、高江・辺野古へ。途中、道の駅・許田で弁当を購入。N4ゲートに到着したのは11時。ちょうど全国一般東京労組がバス1台30名程度で「合意しないプロジェクト」の阿部さんの説明を聞いていた。入れ替わりで阿部さんから現状を聞く。防衛局の「通行妨害排除(要するに座込み排除)の仮処分申請」で大勢の弁護士に協力してもらい、運動が広がりを持ち注目目を浴び始めている。カンパを渡す。



辺野古では、ヘリ基地反対協事務局長の仲村さんに現状を聞く。14日の沖縄タイムスで報道された世論調査結果で県内移設反対が68%と圧倒的に多いこと、15日に締めきった5400頁を超える防衛省のアセス準備書面に匹敵する

5000通以上の意見書が寄せられたこと、来年の名護市長選と県知事選が最大の政治焦点であること等々。「絶対に新基地は作らせない」という固い決意が伝わってきた。キャンプシュワブではクレーン車も見え、兵舎や倉庫の移設工事が始まっている。「アセスも終わっていないのに実質的な建設工事を進めている！」と語気を強めた。支援カンパを渡す。



この日の午後は宜野湾市民会館でアジアから基地をなくす国際連帯集會も開催され、一部メンバーはそちらに参加。韓国の平澤ピョンテックから反基地運動の仲間が来沖した。

18時半、「琉球処分130年アイヌモシリ併合140年「復帰」37年を問う沖縄集會」始まる。会場の浦添社会福祉センターに約200名程度。先住民族の会の平良識子さんの司会で開幕。まよなかしんやさんが主催者挨拶風演奏。仲里効さんは基調報告で「復帰の言葉を使うのは止めよう」と提起。「日本国のチビウーヤーはやめ主体を創造し、新しいドゥシを探そう」と呼びかけました(講演要旨は次頁)。発言は金城実さん、辺野古の安次富さん、高江の佐久間さん、泡瀬干潟の小橋川さん、先住民族の会の渡名喜守太さん、ピリカ実行委の川村さん、最後にアイヌレベルズ3人が登場し民族舞踊や楽器演奏を披露すると場内は最高潮。閉会挨拶は一坪反戦地主会・浦添ブロックの黒島善市さん。最後に海勢頭豊さんのミニコンサートと盛りだくさん。沖縄とアイヌの若い世代の登場が新鮮な印象を残した集會だった。



17日(日) 8時半にホテル出発、前日夜の集會で小橋川さんから報告された泡瀬干潟を見に行く。沖では埋め立てが始まっている干潟には

小さな貝など生き物がいっぱい。



15時、宜野湾海浜公園の県民大会へ。集会は1時間程度遅れて16時スタート。伊波宜野湾市長、辺野古の安次富さん、高江の伊佐さん、韓

仲里効さん基調報告要旨

「復帰」ではない〈1972〉の再構築を！ 日本国のチビウーヤーはやめ 主体を 創造し、新しいドゥシを探そう！ 「つねに磁石を〈南〉に向け帆走せよ！ 難破せよ！氾濫せよ！」（谷川雁）

1972年5月2日付の沖縄県祖国復帰協議会のピラに「沖縄処分を糾弾し核も基地もない平和な沖縄をかちとろう」の見出しがある。1972年5月15日を我々はどう迎えたのか。一般的には沖縄は日本に「復帰」したという。「復帰」の言葉には元々あったところに帰るという意味合いが強い。はたしてそうか。37年前の祖国復帰協のピラにさえ「沖縄処分」の言葉が使われている。我々はこのことをはっきりさせるべきだ。そのことが沖縄の歴史と現在、そして将来にまたがるような、我々自体の歴史認識を再構築していくことになる。「復帰」という言葉を使うをやめようではないか。「復帰」ではない1972年を再構築していく。そのためには違う言葉が必要だ。我々にとって5月15日はどういう日か。二葉の写真から考えてみる。左は故・平良孝七さんの写真集「沖縄〈百万県民の苦悩と抵抗〉」にある1968年の抗議集会の写真。転形期における沖縄の民衆のダイナミズムを描いた写真集だ。「琉球処分はいやだ！」とある。1968年は4月に全軍労が初めて10割年休闘争で基地の内部から基地に対して異議申し立てを突きつけ、主席公選も行われ、翌69年の2・4ゼネストへと上り詰めていく、沖縄の民衆のエネルギーが高揚していく時期だ。その時すでに、「施政権返還」の実態を構造的に把握した上で、民衆レベルで1972年「復帰」は「琉球処分」に他ならないことが、集会の内部から声として立ち上がっていく風景を切り取っている。右は比嘉康雄さんの70年の写真。背中に「再び琉球処分を許すな」の文字が見える。今は一般的に「復帰」といわれているが、そうではない、5月15日は実態としては沖縄が日本に併合された。このことを民衆の共同の歴史認識として提示していくべきだ。

サンフランシスコ講和条約で日本が占領から独立していく過程で、同時に日米安保条約が日本国憲法と共に日本の戦後社会のフレームを形成していく。その中で、沖縄は「天皇メッセージ」に端的に見られるように日本から切断され、戦後日本社会のフレームの外部に置かれた。それが1972年の併合で日本の内部に法制度的には組み込まれていく。それに対して沖縄は納得

国・平澤ピョンテクからのアピールを聞いてから、会場を出てホテルへ。

18日(月) 各自「自由行動」。嘉手納に向かったメンバーは、米軍戦闘機の激しい離発着訓練と爆音を体感。今回のツアーを通じて、日米軍事再編の最前線の沖縄で、基地強化が一段と進行する現実と、強大な日米両政府の圧力に粘り強く対峙する沖縄の人々の〈持続する力〉を改めて実感した。(了)



していない。その〈外部の体験〉を日本のフレームの中で、どのように沖縄の中から共同的な意思として提出していくのかということが課題ではないか。

谷川雁が「原点の力学」という言い方をしている。我々は制度や経済から現実を考えるのが一般的だが、我々の感受性の基本にある感性と情念、思想から考える必要がある。まずイメージから変わる必要がある。イメージを裏返さない限り世界は永久に変革できない。従来手法からすれば異端とも言える逆発想をしながら、問題を投げかけている。既成のコードを裏返していく、裏返ししながらさらにそれを表返していく、それを「原点の力学」といつている。「5月15日」という概念にしても、「復帰」を裏返し、さらにそれを表返ししながら、沖縄の主体を再創造していく、主体を再審しながら再度創造していく方法をとらない限り、沖縄の現状というものは永久に変わらない。このように谷川雁を読み直してみたい。

最後にヤマトのチビウーヤー(後追い、追従)はやめましょうと言いたい。格差是正、同一化という概念をひっくり返し、沖縄の主体を再審にかけながら、再創造していく。そして新しいドゥシ新しい友を探そう。沖縄の思考のパラダイムを「日本の南」というように封印するのではなく、「アジアの北」というふうに規定しなおしていく。沖縄の感性の元、意識の元はアジアというスケールの中で形成される。もう1つの友はアイヌであり、照葉樹林帯に対する落葉・広葉樹林帯をとりでにしたエゾの世界、「沖縄よ、エゾの故地から中間色を学べ」と谷川は言っている。そしてアジテーションのように、新しい文体を發明しながら南へ向かって帆走し難破せよ氾濫せよ！と呼びかけた。そこから沖縄の新しい未来は展望できるのではないか。1980年代に、沖縄が日本に統合されるあり方を鋭く題材的に批判していった反復帰の思想から10年を経て「琉球共和社会憲法」と「琉球共和国憲法」が立ち上げられた。沖縄の抵抗の思想は、不断に国家の併合・統合(天皇制に典型的なグラフト国家)を問う。そこに沖縄の根拠がある。(当日の講演メモを基に編集部でまとめました)

4月2日、キャンプ座間に07年12月に移駐した米陸軍第一軍団前方司令部の関連施設、戦闘指揮訓練センターの着工式が相模綜合補給廠内で強行されました。神奈川平和運動センター、基地撤去をめざす県央共闘会議など約50人が、寒風吹きすさぶ中、8時半から約1時間、西口ゲート前で着工式抗議行動を展開。終了前に4団体の代表が基地警備当局に抗議文を手渡しました。市街地のど真ん中に位置する米陸軍・相模綜合補給廠の機能強化を感じさせました。



5月12日、紅葉坂の教育会館で、横浜市関係四単組（自治労・水道・交通・教組）主催の「米軍再編・基地強化反対！横浜集会」が開かれ、約350名が参加。四単組の反戦集会は4回目。県都・横浜から米軍再編・基地強化反対の声を引き続き発信しよう！主催した各単組代表の発言では、このことが強調されました。来賓からは米軍物資の出入口となっているノースドックや本牧ふ頭の監視活動の強化などの重要性も指摘されました。

6.6

日米軍事一体化を図る基地強化反対！

陸上自衛隊中央即応司令部のキャンプ座間移駐反対！

厚木基地・P3C哨戒機のソマリア沖派兵反対！

相模綜合補給廠への戦闘指揮訓練センターの建設反対！

戦場への道を絶て！ 日米軍事強化反対！！ 戦闘指揮訓練センター建設即時中止を求める相模原集会



と き：6月6日 PM1:30 から
と ころ：相模原市鹿沼公園

■デモ行進 集会終了後 14:15～JR相模原駅まで

主 催：神奈川平和運動センター
基地撤去をめざす県央共闘会議
第一軍団の移駐を歓迎しない会
バスストップから基地ストップの会

去る4月2日、関係者を招いて極秘裡に相模綜合補給廠内の一角で、日米軍事再編で政府間合意した「戦闘指揮訓練センター」の着工式が行なわれた。米軍事戦略と連携を強化するためには、自衛隊の部隊運用を戦場に即した作戦・指揮にしなければならない。キャンプ座間に発足した米陸軍第一軍団前方司令部と陸自中央即応司令部の移駐により、日米軍事一体化した戦闘指揮訓練センターとして建設されるのです。

私たちは、海外派兵のための訓練施設に断固反対します！

■連絡先：基地撤去をめざす県央共闘会議／大和市桜森3-5-3 フォント1F 電話 046-200-5505

4月24日から28日まで、基地撤去をめざす県央共闘会議第七次訪韓団に参加した。第三次以来の2回目の参加だが、前回同様ハードかつ中身の濃い5日間だった。沖繩の問題は、日本との関係だけでなくアジアとの関わりの中で考える必要がある。韓国の様々な運動団体との交流を通じて改めてその思いを強くした。

特に最初の訪問地・チェジュ済州島は、沖繩との類似点が多く、今回のツアー4泊の内2泊がチェジュだったこともあり、一番印象に残った。まず「陸地」（韓国本土）との歴史的差別構造が（沖繩と日本）の関係と類似する。戦後の米軍占領下で起こった武装抵抗と大虐殺（4・3事件と呼称され20数万人島民の9人に1人が犠牲になったと言われる）も、この歴史的差別構造と関連する。パクチョンヒ時代からの大規模リゾート開発―観光地化政策も、現在持ち上がっている海上基地建設問題も、沖繩と類似する。さらに敗戦直前に日本本土防衛を目的として関東軍を中心に20数万人の島に7万人以上の日本軍が押し寄せて司令部壕や基地拡張工事に島民を徴用し虐殺したりしている！今回は丸二日間4・3事件の現場、日本軍の戦争遺跡、海上基地予定地をチェジュで活動するキンボッキさんの案内で巡った。特に海上基地予定地は沖繩の辺野古に劣らぬ景勝地。反対運動の先頭に立つ村長さんに案内され、村民と夕食交流会も！詳細は別の機会に。（F）

県央共闘第七次訪韓団に参加して 沖繩に類似するチェジュ済州島 村ぐるみの海軍基地反対運動！